

コミュニティ美座だより

見守り活動を広げるには？

ネットワーク会議で 4 回にわたって話し合いました

私達のコミュニティ活動の大きな目的は、地域の安心安全ですが、その土台になるのが常日頃の見守り活動だと確信しています。

そこで私たちの今までの見守り活動がこれで良いのか、今回改めて見直してみることになりました。現状と問題点を明らかにし、今後の活動をさらに実のあるものにしていくため、昨年 9 月、10 月、11 月、今年 3 月と、4 回にわたって地域の人々と話し合いました。

1. 見守り活動の現状と今後の取り組み

ネットワーク会議で各地区での見守り活動について報告があり、それぞれ課題も多く出されました。会議に参加した人達は、コミュニティなどの地域活動に積極的に参加し、日頃から見守りを意識している人が大半でしたので、共通する課題が浮かび上がってきました。それは、地域のことなどに無関心な人があまりに多いのではないかと、ということでした。大事なことは、いかにして地域の活動へ人々の関心を集め、見守り活動を全体に広げていくかということです。

第 4 回目の会議では、特に河川敷を活用した魅力のある催しものの企画とか、ラジオ体操、百歳体操など様々な行事の積極的 PR を行うこと。それによって地域の人々が集う機会を今まで以上に増やし、人と人との出会い、繋がりをさらに促すこと、ひいては見守りにつなげていくことで、意見が一致しました。

2. 見守り活動は、みんなの「声かけ」から....

見守り活動は幅が広く、見守る相手も様々ですが、あまり難しく考える必要はないと思います。子ども達の登下校の見守りが分かり易い例ですが、それだけではありません。私たちの日頃の生活の中で無意識のうちに見守りをしている場合があります。例えば、ちょっと声をかけたり、挨拶を交わしたり、世間話をする

だけでも、お互いに見守りになっているのです。さらに見守りを「活動」に広げると、ご近所の気になる一人暮らしの人に声をかけてみる。誘い合って地域のサークルやサロン、茶話会、催しに参加する。ご近所の人に普段と違う様子が見られないか、などを意識する。例えば新聞や郵便が溜まっていたり、長いこと洗濯物が干しっぱなしになっていないか、などです。このように見守りを意識することで、活動として大きく広がるのではないのでしょうか。

見守り活動として、自治会役員や民生委員が個別に訪問して様子を伺ったり、安否確認をすることも大事な活動です。が、むしろ人々の日常生活上の繋がりの中で生まれる、さり気ない見守り活動が、もっとも地域で有効に広がるものと思われれます。皆さん！ お互いのために、ご近所で「声かけ」から始めませんか！

コミュニティ美座
(宝塚市美座地域まちづくり協議会)
代表 梅村 諭



第 4 回ネットワーク会議

平成 30 年 3 月 28 日(水)

